

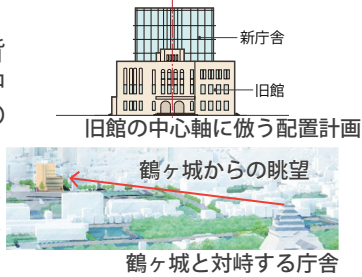
〈設計コンセプト・敷地のゾーニング計画〉

# 城下町会津若松の「人」「歴史」「文化」「情報(ICT)」を「4つの広場」でつなぐ『みんなの庁舎』

## 設計コンセプト① 会津のランドマークとして、市民や市のシンボルとなる庁舎 会津の歴史と未来を感じさせる新たなランドマーク

### ■都市軸を継承する建物配置

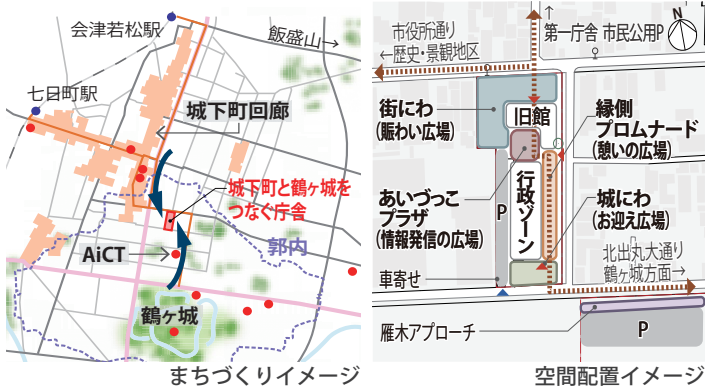
- 遠景では新庁舎が旧館の背景となることから、旧館の中心軸に合わせ、市役所通りの景観を形成します。
- 鶴ヶ城からの景観を意識し、新庁舎南面の顔作りにより、新たなシンボルとなります。



## 設計コンセプト② まちの要として、人が集い、賑わいを創り出す庁舎 城下町回廊と鶴ヶ城を結ぶ賑わいのネットワーク

### ■市民や観光客の居場所となる「4つの広場」

- 市役所通りから北出丸大通りに抜ける動線上に「4つの広場」を配置し、市民や観光客が集い、それぞれの時間を過ごせる賑わいのネットワークをつくり出します。



## 設計コンセプト③ 市民の暮らしのよりどころとなる庁舎 市民の暮らしに寄り添う「街にわ・城にわ」

### ■日常だけでなく災害時にも市民を支える4つの広場

- 「街にわ」は市民や観光客の居心地のよいポケットパークとなり、「会津藩公行列」等のイベント利用が可能です。
- 「城にわ」は、鶴ヶ城や駐車場側からの歩行者用の広場や、車寄せを設け、市民を迎える玄関となります。

【平常時】	城にわ	緑側プロムナード	あいづっこプラザ	街にわ
【災害時】	緊急車両・物資搬入	マンホールトイレ設置	安否情報確認の場	一時避難・ボランティア関係

災害時における「4つの広場」役割

〈業務品質管理の方針〉

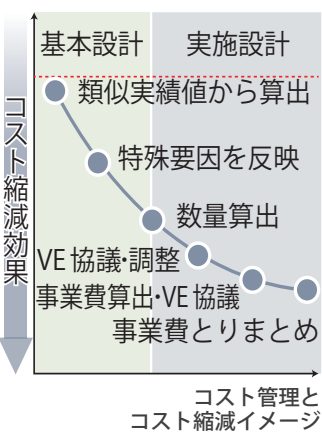
## 業務品質、設計業務の「見える化」により市民と共に創る協働プロセスを構築

コストの管理方針

### 設計進捗に合わせたコストの段階チェック

#### ■6段階のコスト管理を実施

- 当社のコスト情報を数量把握、見積徴収と合せて、設計進捗に合わせた精度の高いコスト管理を行います。



#### ■物価変動等によるコスト動向のチェック

- コスト管理チームがコスト動向をチェックし、資材や労務費の高騰などの情報を共有し、確実なコストコントロールを行います。

コスト管理とコスト削減イメージ

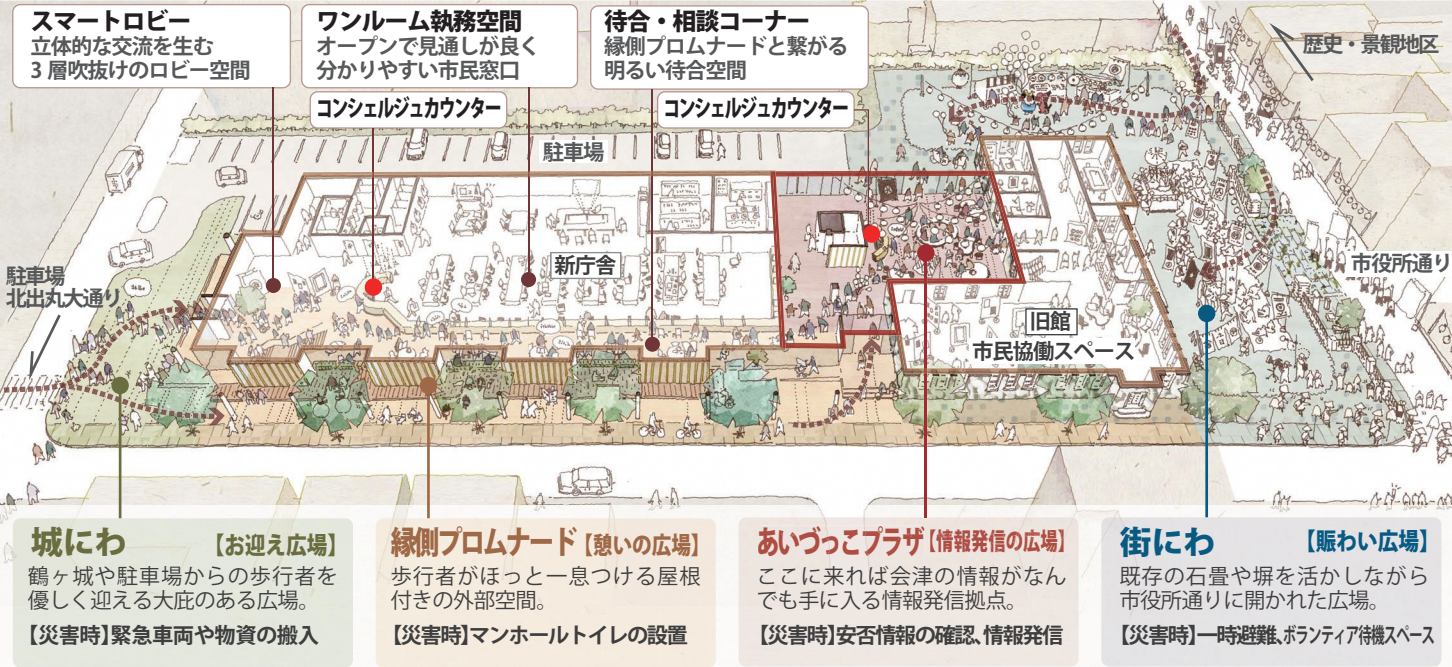
設計コンセプトを具体化する2つの提案項目

## 歴史と未来を表現する新庁舎デザイン —歴史性と先進性を併せ持つ次の会津若松市をつくる庁舎



- 旧館のデザインを継承する縦強調の外壁・開口部構成
- 城下町の町並みをイメージさせる縦格子
- 空とつながりボリューム感を軽減するガラスの高層部
- 旧館と高さや壁面線を合わせた低層部ボリューム
- 市役所通りの視点場からは新庁舎が見えない高さ設定

## 城下町回廊と鶴ヶ城をつなぐ「4つの広場」 —新たな人の流れが賑わいをまちへと生み出す庁舎



- 城にわ** 【お迎え広場】 鶴ヶ城や駐車場からの歩行者を優しく迎える大庇のある広場。【災害時】緊急車両や物資の搬入
- 緑側プロムナード** 【憩いの広場】 歩行者がほっと一息つける屋根付きの外部空間。【災害時】マンホールトイレの設置
- あいづっこプラザ** 【情報発信の広場】 ここに来れば会津の情報がなんでも手に入る情報発信拠点。【災害時】安否情報の確認、情報発信
- 街にわ** 【賑わい広場】 既存の石畳や塀を活かしながら市役所通りに開かれた広場。【災害時】一時避難、ボランティア待機スペース

城下町と鶴ヶ城をつなぐ拠点となる庁舎

〈旧館保存の手法〉

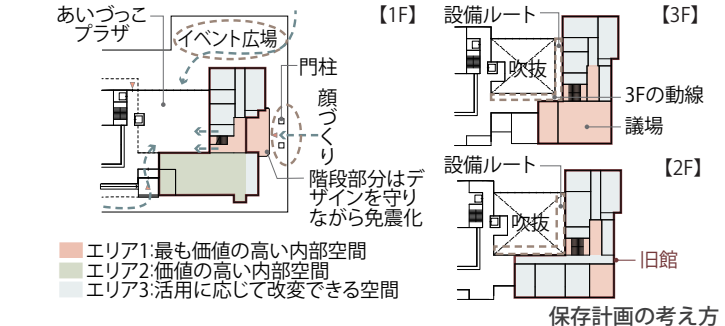
## 建物の健全性確保とデザインの継承を両立し、次の100年につなぐ保存・再生手法

旧館保存における配慮すべきポイント

### 歴史的価値を高める保存・再生手法を提案

#### ■旧館の歴史的価値を高める保存手法のポイント

- 旧館保存計画に示されている内容に加え、保存のポイントとなる各部分の検討を行います。



保存計画の考え方

## 設計コンセプト④ 情報、市民サービスのターミナルとなる庁舎 「識る・見る・交わる」の拠点となる「あいづっこプラザ」

### ■旧館と新庁舎をつなぐ新たな交流スペース

- ICTと連動した観光情報発信拠点として、「あいづっこプラザ」を設け、歴史や観光、イベント情報を発信します。
- タブレット受付サービス(ゆびナビ)やタッチパネル受付サービス等の円滑なサービスを提供できる計画とします。



あいづっこプラザのイメージ

## 設計コンセプト⑤ 歴史を継承し会津らしいまちなかの景観を守り育てる庁舎 歴史を刻む会津若松の景観と呼応するデザイン

### ■伝統を現代に昇華させるデザイン

- 新庁舎の低層部は旧館の外壁や開口部のデザインをモチーフとし、「レトロ新しい」デザインを継承します。
- 高層部はガラスを主体とすることで、低層部を際立たせます。また鶴ヶ城の屋根をモチーフとした水平の庇など、会津若松のデザインソースを現代のデザインに昇華させ、景観形成基準に適合する計画とします。



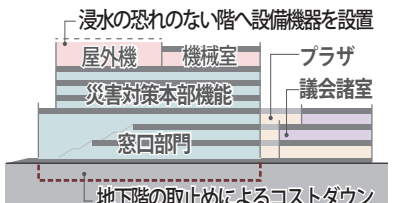
デザインソースイメージ

設計コンセプト⑥ 基本計画を踏まえた設計のポイント

### 事業費縮減への様々なアイデアの提案

#### ■対浸水性と経済性を考慮した地下階のない庁舎

- 地下水位やハザードマップによる浸水高さを考慮し、機械室を最上階に設置することを提案します。掘削量を軽減によるコストダウンと災害時の安全性を高めます。
- プレキャスト化など施工者の観点からの縮減案の提示などECI方式を踏まえた対応も行います。



断面機能構成

採用する構造の検討フロー

### 保存・活用計画を踏まえた最適な構造計画を立案

#### ■構造検討計画フローによる検討内容の明示

【条件設定】	・検討フローの作成・市との合意 ・性能設定 1類を提案					
【比較検討】	耐震・免振構造の比較検討					
	<table border="1"> <tr> <td>耐震化 耐震要素配置と庁舎機能との整合</td> <td>免震化 新庁舎との一体化・別棟比較</td> </tr> <tr> <td>法的取扱い</td> <td>法的取扱い</td> </tr> <tr> <td>基礎計画 施工計画</td> <td>基礎計画 施工計画</td> </tr> </table>	耐震化 耐震要素配置と庁舎機能との整合	免震化 新庁舎との一体化・別棟比較	法的取扱い	法的取扱い	基礎計画 施工計画
耐震化 耐震要素配置と庁舎機能との整合	免震化 新庁舎との一体化・別棟比較					
法的取扱い	法的取扱い					
基礎計画 施工計画	基礎計画 施工計画					
【方針決定】	構造計画方針決定 構造検討計画フローイメージ					